

「とっどりの評判記」

第6話

なんでも

東照宮祭礼のにぎわい



やまびこ博士：今回は、江戸時代の鳥取にタイムスリップしてみました！

こだまちゃん：わあ、すごい人出！こんなの「しゃんしゃん祭り」くらいしかみたことないわ！

やまびこ博士：ここは寛延4年の鳥取城下町。今日は東照宮のお祭り（権現祭）の日だよ。

こだまちゃん：「とうしょうぐう」？

やまびこ博士：江戸幕府をひらいた徳川家康は、死後「とうしょうだいごんげん（東照大権現）」という神様としてまつられた。その神社が東照宮だよ。家康の墓所でもある日光や静岡の久能山のものがあるけれど、それ以外にも全国各地に作られている。

こだまちゃん：鳥取にも、それがあったの？

やまびこ博士：現在の^{おうちだに}橿谿公園入口から橿谿神社を含む一帯が、江戸時代の東照宮の地なんだよ。これは、徳川家康のみまごである初代鳥取藩主・池田光仲によって慶安3年（1650）につくられたんだ。

こだまちゃん：今日はそのお祭りの日なのね。

やまびこ博士：このお祭り自体は、承応1年（1652）、千代川の河原にお旅所ができてから始まった。橿谿を出た^{みこし}神輿とそれを取り巻く行列が、お旅所まで行進する。とても壮麗なお祭りだよ。

こだまちゃん：たくさんのお見物人が行列をながめて楽しんでるわね。

やまびこ博士：殿様が主催するお祭りだけれど、武士や宗教家だけでなく、町の人たちも参加している。最初は、行列そのものの中にもたくさん町の人に加わっていたようだ。

こだまちゃん：鳥取のまち全体のお祭りだったのね。それでこんなににぎわってるんだ。

やまびこ博士：残念ながらこのお祭りは、江戸時代が終わると途絶えてしまう。主催者だった藩が消えたり、幕府の滅亡で家康の権威がなくなってしまったことなどが主な原因だよ。

こだまちゃん：そうなの？でもわたし、同じような行列を見たことあるわ？

やまびこ博士：一旦途絶えた東照宮のお祭りだけれど、江戸時代ににぎわいを懐かしむ人の手で何度か再興が試みられた。現在おこなわれている権現祭も、有志の手で近年復興されたものだよ。

こだまちゃん：ふーん、そうなんだ。

やまびこ博士：現在、東照宮の社殿は橿谿神社として建物が残っている（重要文化財）。また、もともと東照宮を管理していた別当寺院の大雲院も、場所を橿谿から移して現存している。宗教儀礼のための道具なども大雲院に残されているから、鳥取の東照宮は完全に消えてしまったわけではないんだ。

こだまちゃん：これからも、みんなの手でももっていきたいわね。

【佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）】